

済生かわぐち

地域のみなさまと医療のかけはし

済生会川口総合病院 広報誌

ご自由にお持ち
ください

vol.254

特集

耳鼻咽喉科の領域
「相談の多い症状」



耳鼻咽喉科の領域

相談の多い症状

耳鼻咽喉科 明石 愛美



耳鼻咽喉科は耳・鼻・のどに加え、めまい疾患や末梢性顔面神経麻痺、頭頸部領域など幅広い領域の診療を行っています。今回、当院耳鼻咽喉科にお近くの医療機関から相談の多い症状をいくつか挙げ、紹介したいと思います。

【耳の領域】難聴、耳鳴

「急に片方の耳が聞こえなくなった」という自覚症状は急性発症の難聴を考えます。早期の受診、治療をおすすめします。「会話が聞こえにくい」、「耳の中でジージーと鳴っている」という自覚症状は、日常生活で不自由を感じ、人とのコミュニケーションや社会的ネットワークへの参加に支障をきたすほか、認知症やうつ状態のリスクも増大すると考えられています。当科では、耳の診察や聴力検査を行い、結果に応じて画像検査など、更なる精査を行っています。また、補聴器の相談や重い難聴の場合は、身体障害者の該当や公費負担制度についても検討します。認知症の予防可能な因子の中で、難聴は最大の危険因子ともいわれています。ご本人やご家族が耳症状でお困りの際は、耳鼻咽喉科での診察をおすすめします。

【鼻の領域】鼻汁、鼻閉、嗅覚障害

「鼻みずがでる」、「鼻がつまる」、「においがわからない」などの鼻症状の原因は多岐にわたります。

よく知られている鼻の疾患としては、アレルギー性鼻炎があります。本来異物を体内に入れないための防御機構である「くしゃみ、鼻みず、鼻づまり」が、病的かつ過剰に起こる病気です。原因となしやすい物質は、ハウスダスト、ダニやスギ、ヒノキを代表とする花粉、犬や猫などのペット、カビなどで、皮膚反応や血液中の抗体量検査で知ることができます。治療の原

則は原因物質の排除ですが、実際には困難なことも多く、自覚症状をコントロールするため内服薬や点鼻薬時には注射治療や手術も行われます。最近では、舌下免疫療法を代表とするアレルギー免疫療法（減感作療法）も治療の選択肢として挙げられます。アレルギーの原因物質を少量から投与することで、体を慣らし、アレルギー症状を和らげる治療法です。治療期間は長期（3〜5年程度）となりますが、アレルギー性鼻炎を根本的に治すことができる可能性がある治療法と考えられています。

次に、以前は「蓄膿症」とよばれていた「副鼻腔炎」も鼻の代表疾患のひとつと言えます。急性期では鼻づまり、ドロっとした匂いのする鼻汁、頬・鼻周囲・額の痛み、発熱などの症状を認めます。これらの症状が一段落したあとも、なかなかすっきりしないという場合には炎症が残存し、慢性化している可能性があります。鼻内視鏡検査やCT、MRIなどの画像検査を検討した方が良いでしょう。近年では、副鼻腔炎にもいくつかのタイプがあることが報告されています。たとえば、カビが原因である副鼻腔真菌症や鼻閉や嗅覚障害が主な自覚症状である好酸球性副鼻腔炎などです。治療法としては、内服療法やネブライザー療法のほか、内視鏡を用いた手術を必要とするものもあります。そして、近年では鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎には注射治療も適応となります。このように、鼻の症状が長引く場合には、原因を検索し、適切な治療を検討する必要があります。

【頭頸部】腫瘍、疼痛

首に「しこりを触れる」「腫れてきた」などができる場合があります。痛みの有無や発症が急なものと緩やかなものなど様々です。首のどのあたりかで原因は異なります。原因を調べるために、視診・触診（見て・

触って診察)、口腔内の診察や鼻から内視鏡を使って咽喉頭を診察し、必要に応じて超音波検査やCT、MRIなどの画像検査を行います。そして、必要があれば腫瘍の一部組織を採取する生検検査によって、良悪性を含め、組織型の判定を行います。治療は原因によって、全く異なります。手術が必要な場合や首の腫れの原因が肺や食道・胃などの消化器疾患の可能性もあります。結果に応じて、適切な医療を提供できるよ、原因を探っていきます。

【顔面神経麻痺】

顔の一部が思うように動かなくなったり、顔が曲がった状態になると顔面神経麻痺が疑われます。「目が閉じられない」「水を飲むと口からこぼれる」「まぶたが閉じにくい」といった症状が出現します。顔の表情に関わる症状の他に、音が響く、涙が出にくい、耳が痛い、聞こえが悪くなる、めまいがするといった症状を伴うこともあります。顔面麻痺は、神経が損傷を受ける場所によって中枢性顔面神経麻痺(主に、脳梗塞や脳腫瘍など脳実質の病変が原因)と耳鼻咽喉科で扱う末梢性顔面神経麻痺に分けられます。末梢性顔面神経麻痺を引き起こす原因としては、体内に潜伏しているヘルペス属ウイルスであることが分かっています。そのため、顔面の麻痺と同時に耳の周囲に水疱(带状疱疹)が見られる場合もあります。末梢性顔面神経麻痺は自然に回復する場合もありますが、診断・治療が遅れた場合や重度の場合は後遺症(顔面のこわばり、筋力低下、意図しない目や口の閉鎖)が残ることがあります。治療は、神経損傷の原因となっているウイルスの活動を抑え、浮腫による神経圧迫を除く薬物療法が主体となります。重症例に対しては手術を行う場合もあります。後遺症を予防することを目的に、リハビリテーションを適切な時期に開始することが大切です。

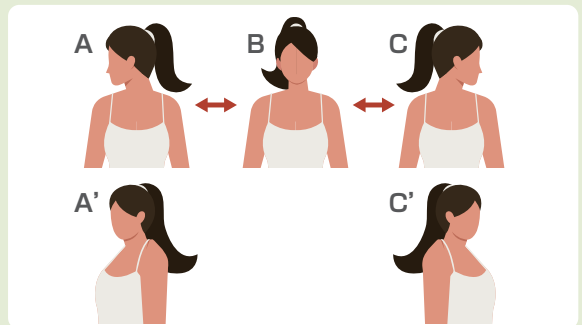
【めまい】

めまいの原因は耳の病気(内耳性めまい)、脳(中枢性めまい)や心臓など、多岐にわたります。そのため、色々な科から紹介されることが多い症状です。めまいの診断のため、詳しい問診、眼の動きを観察する検査(眼振検査)、聴力検査などを行います。これらの結果を総合的に判断した上で、メニエール病や良性発作性頭位めまい症などの内耳性めまいは当科で治療します。脳梗塞や脳出血などの中枢性めまいは必要に応じて精密検査や治療のために担当科に依頼するという役目を担っています。近年、来院される患者様が多くなつた高齢者のめまいについて、耳鼻咽喉科疾患を中心に紹介したいと思います。

■高齢者のめまい

めまいや平衡障害は加齢と共に増加する傾向を示し、高齢者の年間有病率は若者の約3倍。また75歳以上の高齢者の30%以上が体平衡の異常を訴えているとの報告もあります。高齢者におけるめまいと平衡障害は、転倒のリスクファクターのひとつとされます。高齢者によくみられる大腿骨骨折の74%は転倒が原因とされ、高齢者のADL^(※1)やQOL^(※2)を極度に低下させることがある転倒を予防するうえで、高齢者のめまいと平衡障害に対する理解と対応が重要であると考えられます。65歳以上の高齢者においてめまいを来す疾患の約60%は末梢前庭障害で、良性発作性頭位めまい症の頻度が高くなっており、めまいや平衡障害を来すだけでなく、転倒の原因となることも報告されています。良性発作性頭位めまい症は同じ姿勢で長期間いる習慣がある人や、長期のベッド上安静後などで起こりやすいことが知られています。また、良性発作性頭位めまい症は更年期以上、特に高齢の女性に好発することが知られていますが、その発症に閉経に伴って生

図1. 寝返り運動(rolling-over maneuver: Rom)の施行法



仰臥位になり、右を向いて10秒(A)、正面に戻して10秒(B)、左を向いて10秒保つ(C)、これを起床前と就寝前の1日2回、それぞれ10往復ずつ行う。頭部だけの回転(A,B,C)でも、体ごとの回転(A',B',C')でもどちらでも構わない。

(引用後改変)

佐藤成樹、肥塚泉、黒田寿史、他: 疑い例を含む良性発作性頭位眩暈症の診断と治療
Equilibrium Res 2001;60:29-36

じるエストロゲンの低下の関与が示唆されています。エストロゲンの減少が骨量低下を招き、骨粗鬆症を引き起こし、カルシウムからなる耳石においても同様にカルシウム代謝異常(耳石粗鬆症)が生じる可能性が指摘されています。良性発作性頭位めまい症の治療としては、当院では理学療法のひとつである寝返り運動治療を患者さんにお話ししています。(図1)

メニエール病は近年、発症年齢の高齢化が進んでいます。メニエール病の発症ならびに再発、増悪にストレスが強く関与していることが示唆されるようになってきます。高齢者はそれまでの人生において様々な体験を重ねており過剰な精神的動揺・感情興奮を起こすことは少ないが、一度興奮が起きるとおさまりにくく、不安・焦燥・抑うつ状態などの病的的精神状態が誘発されやすいと言われています。高齢者のメニエール病の診断を行うにあたり、メニエール病自体の診断にのみにとらわれるのではなく、ストレス減となる要因に関し検索することが重要となります。治療に関しても、

図2. 体平衡の維持ならびに空間識の形成



体平衡の維持には、視覚情報、体性感覚(深部感覚)情報そして平衡覚からの情報が用いられている。これらの情報が統一されて適切なタスクが計算される。このタスクは眼球運動系、姿勢制御、運動の制御に用いられる。空間識の形成にも用いられる。

(引用後改変)

三上公志、鈴木一輝、宮本康裕、他：体性感覚入力が半規管一眼反射に及ぼす影響
Equilibrium Res 2009;68:28-33.

ストレスに対する対処がめまいや聴覚障害の改善に対し相乗効果を生む可能性があることを念頭に置く必要があると考えます。

■加齢性平衡障害

平衡感覚の維持に携わっているシステム全体の加齢性変化に伴い生じるめまいと平衡障害を加齢性平衡障害と呼びます。平衡感覚の維持には前庭器(三半規管、耳石器)を受容器とする前庭感覚だけではなく視覚情報、体性感覚情報が用いられています。体性感覚のうち平衡感覚に主に関与しているのは深部感覚で振動覚、位置覚などがあります。各感覚器からの情報は神経積分器(加速度・速度情報を位置情報に変換する神経)の一種である neural store に集約され統合処理されます。(図2) 加齢により前庭器の感覚細胞、前庭神経、視覚、体性感覚といった入力系、neural store 自体にも加齢性変化を生じるため平衡障害を生じてしまいます。また、高齢者では出力系である筋肉において

て加齢に伴う筋肉量減少が生じます。そのため、入力系の加齢性変化に対する代償が neural store で行われても、筋肉に加齢性変化が生じると、体平衡維持が困難となり運動障害、転倒のリスクとなります。加齢性平衡障害への対応として、前庭リハビリテーションが有効と考えられます。また、杖を歩行補助具として使用することで、安定性や支持性の確保、荷重や疼痛の軽減、歩行効率の改善が図れます。これに加え杖を介して手掌と指腹部に体性感覚情報を加えることにより姿勢制御が安定する可能性が示唆されています。前庭リハビリテーションと杖の使用を併用することで相乗効果により歩行が改善する可能性があります。

■薬剤性めまい

高齢者ではめまいの原因として薬剤を考慮する必要があります。高齢者では、老化に伴う内耳障害が潜在的に存在し、様々な疾患の罹患率が高く多くの薬剤を使用していることが多く、また、老化による腎機能障害、若年者とは薬剤に対する感受性が異なることなどがあります。めまいの原因となりうる薬剤として抗てんかん薬、抗うつ薬、睡眠薬、降圧薬、抗がん剤などが挙げられます。(表1) 薬剤によるめまいの発生機序としては、低血圧に伴う脳循環障害、中枢神経作用、内耳障害などが挙げられます。また、近年高齢者の多剤服用も社会問題となっています。多剤服用により易転倒性が上昇する理由を簡単に説明することは困難ですが、多剤服用患者の薬剤の中には鎮静作用、降圧作用、抗コリン作用といった脳の働きを阻害しうる薬物が高頻度で含まれているからではないかと考えられています。高齢者では加齢に伴い体内の脂肪成分が増大し、脂溶性の高い向精神薬は体内に蓄積しやすくなります。また、腎機能や肝機能の低下により薬物動態にも変化が生じ、薬効が増強する可能性もあります。服用薬剤数が転倒と関連しているため、高齢者の多剤

表1. めまいの原因となりうる薬物

- ① 中枢神経作用によってめまいを来す薬物
 - ① 薬効が中枢神経作用である薬物
抗てんかん薬 抗うつ薬 鎮静薬 筋弛緩薬
 - ② 副作用としての中枢神経作用によりめまいを来す薬物
抗不整脈薬
抗ヒスタミン薬 (H1 受容体拮抗薬)
抗潰瘍薬 (H2 受容体拮抗薬)
非ステロイド系消炎鎮痛薬 (NSAIDs)
- ② 中枢神経作用によってめまいを来す薬物
降圧薬 高脂血症治療薬 利尿薬
- ③ 内耳障害によりめまいを来す薬物
抗菌薬 抗がん剤 サリチル酸系薬

(引用後改変)

肥塚 泉：■見落とすまい！薬剤性めまいーめまいを起こす薬の薬学的フォローー
1. 治療中断・転倒事故を起こさない！薬剤性めまいを見逃すな
平衡感覚 薬局 2023(印刷中)、中山書店(東京)

服用を減らす努力が重要となります。高齢者に注意すべき薬剤をスクリーニングし、かかりつけ医や薬剤師さんと連携をとり服薬状況を確認しながら本人や家族に多剤服用について十分理解を得たうえで、薬剤を調整するように配慮することが今後重要になると考えられます。今後も高齢者人口は増加し、高齢者率は2060年には約40%となり25人に1人が65歳以上4人に1人が75歳以上になることが予想されています。我が国はすでに世界でも有数の超高齢化社会となっています。高齢者のADLやQOLを維持するために高齢者のめまいや平衡障害に対する理解や対応がますます重要になってくると考えられています。



耳鼻咽喉科
明石 愛美

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医
日本めまい平衡医学会めまい相談医

(※1) ADL (Activities of Daily Living)：寝起きや移動、トイレや入浴、食事着替えといった、日常生活に必要な最低限の動作のこと。高齢化や障害の程度をはかる指標。
(※2) QOL (Quality of life)：生活の質、人生の質と訳される。活力、生きがい、日々の満足感など、自分らしい充実した人生を送っているかの指標。



7月30日は 『土用の丑の日』



土用の丑の日にうなぎを食べる習慣がありますが、なぜだかご存じですか？

もともと、丑の日には『う』のつくものを食べる習慣がありました。

夏にうなぎが売れなくて困っていたうなぎ屋から相談された平賀源内が

「ウナギを食べると夏負けしない」と

宣伝するよう提案したのが始まり

だそうです。

『う』がつくのだから
土用の丑の日に売り出すのは
どうかね？



うなぎにはビタミンA、B1、B2、D、Eなど、
栄養が豊富に含まれています。

ビタミンB1は疲労の回復に必要な栄養素です。



豚肉



豆腐



玄米 など

献立に取り入れて暑い夏を元気に過ごしましょう！



ソーシャルインクルージョンつながり

済生会とSDGs (エス・ディー・ジーズ)



3 すべての人に
健康と福祉を



10 人や国の不平等
をなくそう



11 住み続けられる
まちづくりを



16 平和と公正を
すべての人に



17 パートナリシップで
目標を達成しよう

サロン ～居場所づくり～

ボランティアさんと協働し、どなたでも気軽に参加していただけるサロンを開催しています。

詳しくは
こちら



問い合わせ先

医療福祉事業課 (TEL : 048-253-8951)

当院では、患者さんにより良い医療を提供するため、地域の医療機関の先生方（かかりつけ医）と連携、役割分担をおこなっています。

戸塚安行かみうら耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科 小児耳鼻科 アレルギー科



これまで中耳炎やアレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎（ちくのう症）などの疾患に加え、めまいや難聴、顔面神経麻痺、睡眠時無呼吸症候群、がんの診療もしてまいりました。大学病院での経験と耳鼻咽喉科専門医、アレルギー専門医としての知識を活かして、微力ながら地域のみなさまの健康に貢献できればと考えております。気になる症状、お悩みの症状がございましたら、ささいなことでもご相談下さい。皆様のお役に立てることができれば幸いです。



かみうら だいき

院長 上浦 大輝 先生

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	—
午後	○	○	○	○	○	○	—

○月・火・水・木・金

午前 09:15～12:15 午後 14:45～18:15

○土

午前 09:15～12:15

※WEB予約可能です。詳しくはホームページにてご確認ください。

住所：埼玉県川口市大字長蔵新田764-8
戸塚安行医療モール101

TEL:048-298-0500

森永眼科クリニック

眼科



国内の大学病院や海外留学で最先端の技術を習得しながら、白内障担当医として従事してきました。当院では、自分で診察できる範囲の診察を行い、重症な方には適切な病院をご紹介します。今まで遠くの大病院にかかっていた方や、通院が大変な方など、近郊にお住いの多くの方に受診していただき、多くの方の受け皿になりたいと思っております。これまで培ってきた経験を南浦和で生かし、ご縁を大切にしながら地域に貢献ができればと思っております。



もりなが まさひろ

院長 森永 将弘 先生

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	—	○	○	—
午後	—	○	○	—	○	○	—

○火・水・金

午前 09:00～12:30 午後 14:30～18:00

○月・土

午前 09:00～12:30

※詳しくはホームページにてご確認ください。

住所：埼玉県さいたま市南区
南浦和2-12-18 3F

TEL:048-762-6152



はまだ内科・消化器外科クリニック

一般内科 消化器内科 一般外科



2020年10月川口市南町にクリニックを開院することになりました。大学病院、市中病院で多くの症例を経験し、更に済生会川口総合病院では10年に渡り地域の皆様の診療に携わってまいりました。生まれ育ったこの地域の皆様の、かかりつけ医として信頼され、来てよかったと思っていただけるクリニックを目指してまいります。消化器内科、外科を経験しており、双方の視点から検査、診断、治療のご相談ができと考えております。お気軽にご相談下さい。



はまだ きよしげ

院長 濱田 清誠 先生

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	—	○	○	—
午後	○	○	○	—	○	—	—

○月・火・水・金

午前 09:00~12:00 午後 15:00~18:00

※14:00~15:00は大腸内視鏡検査を行います。

○土

午前 09:00~13:00

住所: 埼玉県川口市南町2-7-3

TEL: 048-251-1123

鳩ヶ谷耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科



病気になって初めて、『あたりまえ』の日常がとても大切であったと実感することがあります。耳鼻咽喉科は、聴く、嗅ぐ、味わう、声を出すといった日常の感覚や動作に関わる診療科です。2020年10月、川口市鳩ヶ谷に開院いたしました。来院される皆さんや、我々スタッフが居心地よく過ごせるために診療所のように診療所ではない空間を準備しました。鳩ヶ谷の皆さんの「耳」「鼻」「のど」の『あたりまえ』の日常が流れていることを日々願っています。



きただ よしひろ

院長 北田 良裕 先生

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	—	○	○	○	—
午後	○	○	—	○	○	○	—

○月・火・木・金

午前 09:00~12:00 午後 14:30~18:00

○土(午後は完全予約制)

午前 09:00~12:00 午後 14:00~17:00

※WEB予約可能です。詳しくはホームページにてご確認ください。

住所: 埼玉県川口市大字里372

メディカルガーデン川口 1F

TEL: 048-299-8733

INFORMATION

院長日誌

4月1日から当院での外来診療後の薬剤の対応を原則院外薬局にお願いすることといたしました。今まで院内処方に対応された患者さんにはご不便をおかけすることになるかもしれません。以前は医療は医師・看護師がほとんどの業務をこなしておりましたが、特に病医院では、医療が高度化・専門化する中で多くの職種がかかわるチームでの医療の提供が要求されるようになっていきます。院内での薬剤師の業務が増加することにより、今回の変更に至ったことご理解いただければと思います。病院周辺にいくつかの調剤薬局がオープンしておりますので、ご利用いただくか、また患者さんの住居のお近くの調剤薬局での対応をお願いいたします。



病院長 佐藤 雅彦

小児健康教室

オンライン開催です。ご自宅でゆっくりと視聴していただけます。

参加費
無料

テーマ：「食物アレルギー」

- 内 容：食物アレルギーの原因・検査と治療
食事制限によるメリットとデメリット
- 配信予定：2023年8月7日～8月21日（申込7月3日～）

テーマ：「夜尿症」

- 内 容：夜尿症について・検査と治療 日常生活の注意点
- 配信予定：2023年10月10日～10月23日（申込9月11日～）

■ お問い合わせ：小児科 0570-081551（代表）
（平日 15：00～16：30）

※事前申し込みが必要です。
詳しくは当院ホームページでご確認ください。

申し込みは
こちらから▶



新任医師紹介



呼吸器内科 松本 卓也

お知らせ

電話お取り次ぎの混雑緩和のため、「ナビダイヤル」を導入致しました。音声ガイダンスに沿って、番号ボタンをプッシュしてください。

0570-081551（病院代表）

公式 SNS のご紹介

当院では公式のLINE・Instagramでの情報配信をしています。健康情報や気になる情報をお届けしていますので、ぜひ登録・フォローをお願いします。

【公式】
済生会川口総合病院
LINE



【公式】
済生会川口総合病院
Instagram



【公式】
済生会川口総合病院
マタニティInstagram



済生かわぐち
バックナンバーは
こちらから



病院の
理念

患者さんを中心とした
質の高い医療の提供により
地域・社会に貢献します



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部

埼玉県済生会川口総合病院

〒332-8558 埼玉県川口市西川口5-11-5 ●TEL：0570-081551（代）

済生かわぐち 第254号 2023年7月25日発行 ●発行人：病院長 佐藤 雅彦 ●編集：経営企画課



採用情報
はこちら

